

身近な税金に気づいた時

山口 悠希

今年の夏、祖父が入院した。

発熱がある状態で病院に行かなければならなかった為、「新型コロナ疑い病棟」という所に入れられてしまった。

その後新型コロナの疑いは晴れ、一般病棟に移ることが出来た。その際、祖母の家に病院から電話があった。「コロナ疑い病棟にいた期間の入院費は無料になりますが、今後は入院費が発生するので、ご了承ください。」という内容だった。

その時はじめて、祖母と私は新型コロナに関する医療費が本当に公費で負担されていることを実感した。

公費 = 税金ということ。

昨年から新型コロナの感染拡大は止まらず、世界中の人々が感染する不安を抱えながら、日々が過ぎている。そんな不安な毎日だけど、感染したとしても、新型コロナの治療費の支払いに怯えることなく病院に行ける安心感があるのは国のみんなが納めてくれた税金のお陰なのだ。

税金は社会保障に一番多く使われていることは勉強して知ってはいたが、この度、医療費の有り難さをひしひしと感じた。

少し前のニュースでアメリカでは医療費が高額すぎて、保険に加入している人たちの約半数が、新型コロナ関連の検査や治療にかかる費用をまかなう自信がないと答えている、というものを目にした。少し調べてみると、重症コロナ患者の場合、人口呼吸器かECMOか、腎不全や血栓症の有無などによって一人あたりの医療費は千差万別だが、およそ三百万から千五百万以上かかっているということが分かった。とても高額である。そして日本では健康保険証を見せれば、誰でも、いつでも、この高額な治療を無料で受けることが出来るのである。

税金が何に使われているのか分からない、そう思っている人がたくさんいる。しかし、新型コロナウイルスという未曾有の危機の中、命を救われる人、治療を受けられる人がいる。そういう身近に起きている税の使われ方を知ることが出来れば快く税金を納められるようになるのではないかと思った。

現在の日本は少子高齢化社会である。社会保障のためにかかるお金は増える一方。国債金の割合も年々大きくなっている。新型コロナウイルス感染症対策の費用も加わり、税の問題は簡単には解決できるものではないだろう。

しかし私は今、祖父のお陰で税金は人々を支えている大切なものだを知ることができた。

自分が大人になった時の為、未来の日本も人々が安心して病院に行ける為に、税金についてこれからはしっかり考え、改善していけるようにしていきたい。